

6/25

2021年第1398号

(毎月5、15、25日発行)

大阪府歯科保険医協会 会武
 発行人 和田 和典
 大阪市浪速区幸町1-2-33
 電話(06)6568-7731(代表)
 http://osk-hok.org/
 ●定価・年間10,000円 月1,000円
 ●1977年5月23日第三種郵便物認可

第8回日常診療経験交流会 7月11日、ドーンセンター

分科会 多彩に8演題

実践交流・記念講演

大阪府保険医協会と大阪府歯科保険医協会が7月11日にドーンセンター(大阪市中央区)で開く「第8回日常診療経験交流会」の分科会のスケジュールが固まった。歯科に関するものは8演題で、開業医が多彩なテーマで報告する(左表)。コロナ禍を受け、Zoomでの参加にも対応する。各開業医の日頃の実践や研究活動について交流し、意見交換する貴重な場となることから、協会は多くの会員の参加を呼びかけている。



Zoom対応

日常診療のテーマは「そのとき医療者は〜感染症と災害にどう向き合うか」で、医科歯科共催は4年ぶり。午前の分科会では、歯科の会員から「日常診療における工夫と実践」に7演題、「自由演題」に1演題の応募があった。内容は、部分義歯の調整や問診、小

- 【第3分科会「日常診療における工夫と実践(歯科)」】**
- 3-1 部分床義歯の調整法を考察してみた (9:40~10:00) 東大阪市/西川歯科医院 西川 真二
 - 3-2 問診にこだわる(解釈モデルの応用) - 「じつはネ」から始まる患者の世界- (10:00~10:20) 吹田市/フクハラ歯科医院 福原 稔
 - 3-3 小児口唇閉鎖力検査方法とその評価・指導について (10:20~10:40) 堺市/畑崎歯科医院 畑崎 清孝
 - 3-4 認知症に対して、最初の一步 (10:40~11:00) 堺市/坂口歯科診療所 坂口 勝
 - 3-5 オーラルディスキネジアの方へ義歯治療〜6年経過〜 (11:00~11:20) 東大阪市/医療法人大谷歯科 大谷 学
 - 3-6 コロナ禍における在宅歯科医療とICTのソフトな利活用 (11:20~11:40) 中央区/医療法人林歯科医院 林 宏和
 - 3-7 下顎骨髄炎にCGFを用いて治療した症例 (11:40~12:00) 八尾市/やべ歯科クリニック 矢部 あづさ
- 【第4分科会「その他(自由演題)」】**
- 4-6 地域で感染症の方々と共に (11:20~11:40) 西成区/わたなべ往診歯科 渡邊 充春



大阪連絡会、市民公開講演会を6月12日に開いた。「大阪医療崩壊の根

声上げ医療崩壊止めよう

保険でよい歯科医療を 大阪連絡会 本田宏氏(医療制度研究会副理事長)が講演

本原因と再生の処方せんと「の」のテーマで外科医の本田宏氏(NPO法人医療制度研究会副理事長、写真)が話した。講師をWEBでつなぐサテライト形式で、M&Dホールでは24人が受講し、Zoomは45カ所と接続。70人以上が視聴した。本田氏は、大阪の新型コロナウイルス患者の死者数が全国最多になっていること

を指摘し、「感染者数1位の東京より、なぜ大阪の死者数は多いのか」と問題提起。大阪の医療提供体制が逼迫した背景に、府立病院の独立行政法人化や維新府政の「財政再建プログラム」による救命救急センターへの補助金の廃止などがあると述べ、「政治と命は直結している」と強調した。コロナ禍の状況を正し

ために声を上げる必要性を強調。フランスでは高校生もデモに参加していると紹介し、「日本でも民主党に政権交代した2009年の総選挙では多くの国民が声を上げ、投票率は7割に迫った。時代を変えるのは国民だ」と訴え、医療崩壊を食い止めようと呼びかけた。

講演動画をYouTubeで公開中。QRコードからアクセスしてください。



ワクチンの接種によってずっと長いトンネルの先に光が見え始めたが、これは終わりではない。これからの新しいウイルス感染症が到来すること予想して、その対処の方法を考えて暮らしをデザインしなければならぬ。そのために私が長年実施してきたゴリラの研究が少しは役に立っているかもしれない。

私はアフリカでゴリラの調査をしながらエボラ出血熱に出会ったことがある。これはCOVID-19



1989年度から自主的生涯研修制度をスタートさせた。学術臨床、社保、税務、従業員管理などこれまでの研修会の実績に基づき、いっそう系統的、総合的に実施することをめざしたものの。

感染症とこれから期待される未来社会

山極壽一(総合地球環境学研究所所長)

19と感染症や感染経路が似ているが、致死率が高いために世界中に広がることはなかった。しかし、このウイルスが蔓延している過程を見ると、それは森林伐採と環境を壊す考え方が必要になる。

自然の諸力を利用して環境を整える考え方が必要になる。

軍部によるクーデターで揺れるミャンマーは2011年に民主化され、昨年の選挙でスー・チー氏が率いる国民民主連盟が圧勝したばかりだった。同国では、民主化運動への弾圧や虐殺、デモ主導者への逮捕・拷問が続いている。国際社会では非難の声が上がっているが、日本では市民の反応は薄いように思う。しかし、同国の歴史と日本は切り離せない関係にある。

サッカーのミャンマー代表選手が帰国を拒否し、日本に難民申請する意向を表明した。国内外で命をかけたたたかいが続く。「彼の国」の出来事として終わらせず、国際的な支援を望む声に応えたい。(Y)

歯科医師・スタッフの求人募集は協会HPへ
 お問い合わせ: 協会新聞部
 Tel 06-6568-7731